

防災教育の取組みについて

名古屋市立工芸高等学校

都市システム科 橋本 進司

1 はじめに

近年、日本では、東日本大震災をはじめ、広島のと砂災害、御嶽山の噴火等の自然災害が多発しており、多くの方が被災している。1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災から今年で20年が経過した。日本は世界的に見ても自然災害の多い国であり、M6以上の地震の、20.8%が日本で発生している。更に30年以内に約80%の確率で南海トラフ巨大地震が発生するとも言われている。

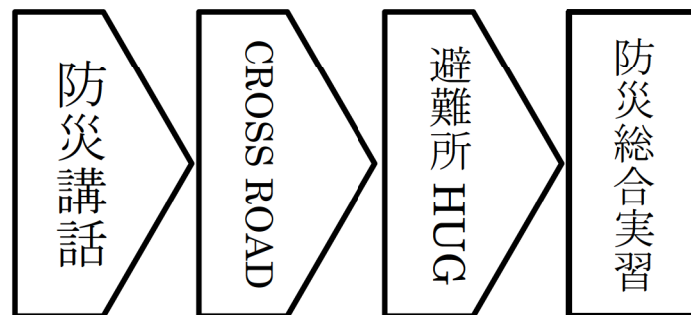
そこで、本科では、防災に関する実習を行うことにより、災害に関する意識を高め、「命の大切さ」、「災害の実情」、「災害の心得」の3点をポイントに、災害時に適切な判断と行動をとる知識と行動力を身につけることを目的として、防災教育に取り組んでいる。

2 実習のねらい

災害時、自分の命は自分で守るという「自助」の意識と、自分の街・地域は自分たちで守るという「共助」の意識を高めること。

3 実習内容

本科では、8回を1ショップとし、1回2時間で13～14人1班にて実習を行っている。実習の展開内容については以下の通りである。



(1) 防災講話

第1回目の実習内容として、名古屋市東区の防災担当者からの防災講話を実施している。講話のテーマは、「備えで変わる家庭の防災」で、大地震に遭遇した時の対処方法や、家庭に備蓄しておくの良いものなどの内容である。

また、防災担当者の方は、大学生時代に東日本大震災に被災されており、その時の状況や教訓などの内容もある。さらには、学校の備蓄倉庫内にあるものと同じ梅粥を食べながら講話を聴き、災害用仮設トイレ、簡易間仕切りの組立も行っている。

生徒の感想として、「災害は自分が想定している以上の事が起こると分かった。」「近所の人とのコミュニケーションを今まで以上に大切にしたい。」などの感想が出ていた。



(2) CROSS ROAD

CROSS ROADとは、岐路や分岐点を意味しており、災害時に判断を求められる内容のクイズをYES・NOで答える多数決ゲームである。本校で使用しているCROSS ROADには、市民編とボランティア編と神戸・一般編の3種類がある。中でも神戸・一般編では阪神・淡路大震災において災害対応にあたった神戸市職員へのインタビューの内容がもとになっており、実際の対応において神戸市職員が経験したジレンマの事例をカード化ものである。これは、内閣府より災害対応カードゲーム教材として紹介されており、一般に販売されているものを使用している。



CROSS ROADの問題として例えばこんなものが挙げられる。「あなたは、市民です。大きな地震のため避難所（小学校の体育館）に避難しなくてはならない。しかし、家族同然の飼い犬“もも”（ゴールデンレトリバー・メス・3歳）がいる。一緒に避難所に連れて行きますか？」といった内容をYES・NOで答える。普段生活をする中で、あまり考えたことのないことをゲームを通して考え判断をするといったゲームになっている。

ねらいは以下の3点である。

- ア 災害対応を自らの問題として考え様々な価値観を共有すること。
- イ 災害対応の場面で、誰もが誠実に考え対応すること。そのために災害が起こる前から考えること。
- ウ 他者の意見を広く考えると同時に自分の考えについても洞察を深めること。

生徒の感想は「正直、とても難しいが他の人を助けて、自分が犠牲になってもダメだし、自分さえ生き延びればいいという問題でもないということが起こるとのこと。」「自分を助け、人を助ける。また、そのための心の準備をしておきたいと思った。」「災害時には、想定外の事が多いので、慌てず対処できるようにするために考えることができた。」などがあつた。

(3) 避難所 HUG

避難所 HUGとは、避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームである。どのような例があるかという点、普通の市民の他に外国人旅行者、けがをした人、認知症の老人、妊婦、車いすの人、夜泣きのひどい赤ちゃんなどがいます。さらには震災で両親を亡くした子供の兄弟もいる。

ねらいは以下の3点である。

- ア 災害対応を自らの問題として考え、避難所運営の難しさを学ぶこと。
- イ 地域には、色々な事情を抱えた住民が多く、ゲームを通して共助の意識を高めること。
- ウ 他者の意見を広く考えると同時に自分の考えについても洞察を深めること。

生徒の感想は「自分が避難所を運営する立場になった時に避難者の方々に安心して生活をしてもらわなくてはならないので、今回の実習の経験は絶対に活かせると思った。」「スペースの確保だけでなく、体のケアや心のケアなども考えながら避難所の運営をしなければならないと思った。」などがあつた。

(4) 防災総合実習

今までの防災実習を通して、工芸高校を客観的に見て避難所として足りない設備について考え、レコブリックという特殊なレンガで作ることを条件に以下の内容で行っている。

ア 企画立案：どこに何を何のために。

イ プレゼン：企画書、パワーポイント、設計図の作成

ウ 施工：プレゼンテーション後、投票により良かった内容から順に作品を製作する。

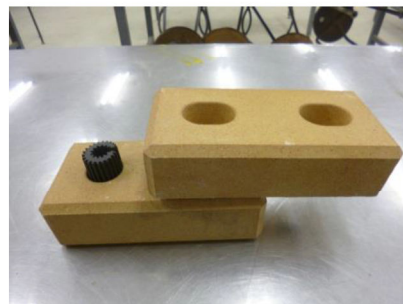
ねらいとして、防災講話や防災実習を通して、学んだことについて考えを深め、提案することさらには、班員とコミュニケーションをとり自分の洞察を深めることである。

実習には、モルタルを必要としないレンガで簡単に組み替えが可能な「レコブリック」を使用している。そこで、かまどベンチの様に普段は、ベンチだが災害時はかまどになるといったなど、使用用途を変更させるといった内容で企画した。生徒が考えた内容は以下のとおりである。

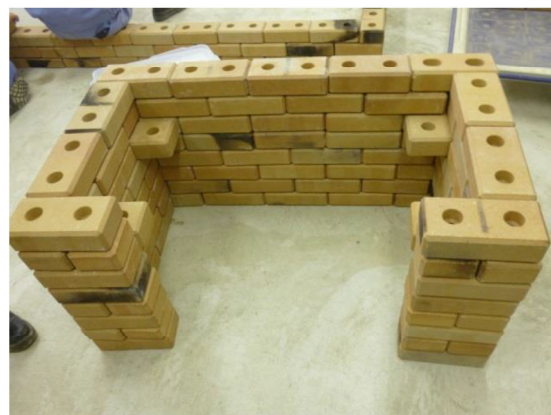
ア かまどベンチ イ ベンチトイレ

ウ はたけカマド エ かまどテーブル

オ ゴミ箱かまど



下の写真が「エ はたけカマド」で左が畑で右がかまどの状態である。



4 まとめ

防災実習を通して、ねらいとした災害を自らの問題として考えるといったことは、生徒に伝えることができた。自分の命は自分で守らなくてはいけないことや、近所の人とのコミュニケーションが日頃から大切になるという事など改めて実感することができたと考える。さらには、総合実習では私自身が思いつかないような面白い発想の提案が出るなど、生徒の発想力や考える力に驚いた。

また、防災実習は、災害の事のみではなく、周りの人間とコミュニケーションをとり、自分の意見を述べるなどの言語表現の内容にも特化しており、昨今、社会に必要とされているコミュニケーション能力の向上にも大きな役割を果たしたのではないかと考える。

最後に、災害に遭わないことが最良だと考える。しかし、災害大国日本で生活する上で自然災害とどのように向き合っていくか、もし災害に遭った時にどのような行動をとれるか、それをこれからも防災実習で伝えていくことが課題であるといえる。

「教育は最大の防災対策」